

J.S.Bach Inventionen

バッハ インヴェンション

第4番 ニ短調 BWV775

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって	3
1. バッハ「インヴェンション」第4番 d moll BWV 775 楽譜	4
2. 装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「インヴェンション」第4番 d moll BWV 775 第I展開部の楽曲分析と演奏法について	7
4. バッハ「インヴェンション」第4番 d moll BWV 775 第II展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. バッハ「インヴェンション」第4番 d moll BWV 775 第III展開部の楽曲分析と演奏法について	13
6. 楽譜に3~5のアナリゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	15

■はじめに

2003年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012年にPDF書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いであります。

この度、全15曲のPDF書籍、それからYou tube 講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近ではコンクール課題において、小学5,6年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

(2019年3月)

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (*Johann Sebastian Bach* 1685-1750) は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける17世紀初頭から18世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ (1545-1618) (イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります)、ドメニコ・スカッラッティ (1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ (1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759) などが上げられます。

今から300年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたりますチェンバロ (独: *Cembalo*, 伊: *clavicembalo*) で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハーブシコード (*harpsichord*)、フランス語ではクラヴサン (*clavecin*) といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー (*polyphony*) といいます。ポリフォニー (*polyphony*) の対義語としては、ホモフォニー (英語: *homophony*、独語もしくは仏語: *Homophonie*) となります。和声音楽です。

曲集に採用されています15調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ホ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ート長調ート短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調 と嬰へ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く15調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット4つまでの調です。) このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 4

Johann Sebastian Bach
BWV 775

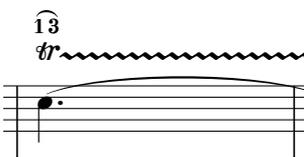
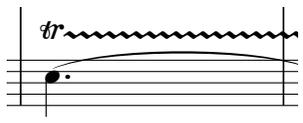
The musical score for Invention No. 4 by Johann Sebastian Bach, BWV 775, is presented in five systems. Each system consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The piece is in G minor and 3/8 time. The notation includes various musical symbols such as notes, rests, and ornaments. Fingerings are indicated by numbers 1-5 above or below notes. Trills are marked with a wavy line and a number (13). A fermata is placed over a note in the fourth system. The score concludes with a trill and a fermata in the fifth system.

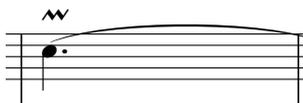
2. 装飾記号の演奏について

装飾記号の演奏例について説明させていただきます。

17小節上声の  は、原稿にはないようですが奏した方が良くと思います。

 又は  と演奏して下さい。

19～21小節上声の  及び 29～33小節下声の 

は、1723年清書譜（及びヘンレ版）では  と 

と後者は長い装飾記号となっていますが、  及び

 というように演奏して下さい。

29～33小節下声を、ツェルニーはE-Fisで奏するように指示していますが、E-Fの方が良いと思います。

装飾記号の演奏に関しましては、演奏者により様々です。上記を参考に演奏して下さい。

3. 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について

第 4 番は、3つの展開部から構成されています。第 I 展開部は、1~17 小節です。

まず、この曲の主題は以下となります。

主動機 (主題)

7 度

The image shows a single staff of music in 3/8 time. A red bracket above the staff spans the first four notes, labeled '主動機 (主題)'. A blue bracket below the staff spans the interval between the second and third notes, labeled '7 度'.

この曲も、7度音程を意識して演奏下さい。

この主題に対し、第一対旋律が置かれています。

主題

第一対旋律

The image shows two staves of music. The top staff contains the main theme, with a red bracket above it labeled '主題'. The bottom staff contains the first counter-melody, with a green bracket above it labeled '第一対旋律'. Fingerings are indicated with numbers 1-5.

第 I 展開部を、3つの区分に分けることができます。

まず、A にあたります 1~4 小節。

主題

第一対旋律

d:

The image shows two staves of music, similar to the previous one, but with a red 'd:' below the first staff. The red and green brackets and labels are present.

主題の提示と模倣です。そして、その主題に対しての対位句の提示となります。(第一対旋律とありますが、この表現は様々です。)